



## (66) インターネット「人肉搜索」による社会的影響

野村综研(上海)咨询有限公司

### ◇北京女性のブログから始まった「死亡ブログ事件」

「人肉搜索」とはGoogle、Baiduなど大手検索エンジンでの検索ではなく、掲示板などにある人の事件、個人情報載せて、膨大なインターネット利用者の力を利用して、本人に関係あるすべての情報をインターネットから収集することである。日本でいう「はてな」などの「人力検索」である。

この「人肉検索」に関わる最初の起訴案件が2008年に行われた。この案件は、北京市に住む1名のホワイトカラー女性が夫の不倫に気付き、夫の不倫について自分のMSN SPACEに最後の「死亡ブログ」として書きこんだ後、07年12月29日に自宅マンションビルの24階から飛び降り、自殺したのである。

この自殺事件が発生した後、すぐにこの死亡ブログが発見され多数のアクセスがあった。さらに、このブログが大手の各掲示板に転載されることで、社会への認知が急速に広がった。

その結果、わずか数日間で、彼に関するすべての個人情報（就職先、自宅住所、会社と自宅の電話番号、両親の自宅電話番号、両親の住所など）だけでなく、不倫相手の女性との写真もインターネット上で公開されることになった。

これらの情報の公開により、彼の会社、自宅、両親の自宅までもが非難の電話などで大騒ぎになった。また、激しい社会世論による圧力で、彼の会社は彼を停職にせざるを得なくなり、彼は新しい仕事を探すこともできなかった。また、自宅の周りに常に多くの見知らぬ人たちが集まってきて、彼は自宅から出る勇気さえも失うことになった。

絶えず外界による批評・非難を受け、就職も出来なくなり、通常の生活が維持できなくなったのである。

### ◇注目される「人肉搜索第一号起訴案件」の判決

この男性は「プライバシーの侵害」「名誉毀損」で、自分の全ての情報と写真を流した掲示板サイトと、初めて「死亡ブログ」を転載した人を提訴した。度重なる審理を経て、北京市朝陽区高級人民裁判所はついに08年12月18日、被告が原告に対してプライバシーと名誉権を侵害したと判断した。

今回の裁判がそこまで注目されるのは「人肉搜索」による悪質な影響が巨大化してきていることと、政府が「人肉搜索」を非常に重要視していることが初めて示されたことである。

### ◇残されるインターネット活動による社会道徳、法律整備の課題

中国では、インターネット上での活動に対して、まだ規範となる関連法規が一切ない。インターネットへのアクセスは、だれでも簡単に自由にでき、掲示板への書き込みは匿名性が高いものの、ネット上での活動はほとんど規制されていないのである。そのため、最近、悪質な「人肉搜索」事件が頻繁に発生している。今回のような事例は、「インターネット暴力」に近いと言えるだろう。

この件で、北京市朝陽区高級人民裁判所より次のような3つの課題が検討された。(1)一般大衆の個人情報の公開とプライバシー侵害との間の適切なバランス(2)ネットサイト・掲示板サイトはインターネット利用者が書き込む不適切なコメントを監視する義務の有無及び背負うべき責任の程度(3)道徳的批判とプライバシー保護のバランス。

今回の判決は、人肉搜索による悪質な社会的影響を初めて厳しく取り扱い、インターネット活動への道徳観、法整備に問題意識を投げかけたことに大きな意義がある。

(コンサルタント 黎慧 =おうへんに「玉」)